



令和2年 3月 11日
第447号
新発田市立東豊小学校

ホームページ <http://toho.shibata.ed.jp>

心と力の「つながり」を大切に！

校長 高橋 祐二

令和2年。暖冬、少雪で穏やかな新年を迎えたかと思いきや、新型コロナウイルスの感染拡大により世界中に危機感が広がっています。この拡大が、日本の政治や経済、国民の生活に大きな影響を及ぼしているとともに教育界にもかつてない衝撃を与えています。一刻も早く終息し、平穏な世の中になることを願うばかりです。

さて、2月27日（木）の夕刻、安倍首相より国内の新型コロナウイルス感染拡大対策として、全国の公立小中学校、高等学校、特別支援学校を3月2日から春休みまで休校措置を要請するとの報道がありました。テレビやネットで速報が出され、私は、国家の一大事であると受け止めました。そして、人が集まるような集会等を自粛する動きから、翌日、予定している「六年生を送る会（六送会）」の開催を急遽取りやめることを保護者、職員へ連絡メールで知らせしました。時間は、午後7時40分でした。きっと、連絡を受けた保護者、そして、それを知った子どもたちは、大きく落胆したことと思います。特に、これまで中心となって準備を進めてきた五年生や職員にとって、涙がでるほど悔しかったに違いありません。きっと、私（校長）の判断を子どもたちや保護者、そして職員も怒りの感情を抑えられない気持ちになったことでしょう。「校長先生、お願いだから六送会させてください。」と叫んだことと思います。

当日の夜、テレビでは、この緊急事態の報道ばかりでした。国が重大な局面に陥っていることがひしひしと伝わり、これまで経験したことのない感情が沸いてきました。そして、今後の国の動向が気になりつつも午後10時過ぎ、私は床に入りました。しかし、興奮しているのか心臓がドキドキして眠れないのです。いったいこの興奮の要因は何かと冷静に考えてみると、私が下した判断への後悔でした。あれほどまでに、子どもたちが心を一つにして、準備や練習をしてきた六送会の開催を簡単に中止連絡してよかったのか？六年生に感謝の気持ちを伝えるために在校生は、必死になって準備をしてきました。六年生も、歌で在校生にメッセージを送ろうと一生懸命練習してきました。子どもたちや職員、保護者の気持ちを考えると、自分の下した判断への後悔の念が次から次へと沸いてきました。**そのため、私はついに保護者や職員から困惑させたことへの批判を覚悟の上、中止の撤回を決めました。**大迷惑を承知の上で教頭に電話し、撤回の相談を行い連絡メールを配信することを依頼しました。登録されている皆様にメールが届いたのは、午後11時半を回っていたと思います。全く常識外れな対応でした。**この場を借りまして、あらためまして保護者や子どもたち、そして、職員にも困惑を与え、ご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。**

六送会は、実施できることの喜びが爆発したのか？子どもたちは、思う存分、準備と練習の成果を生かし感動的な六送会となりました。五年生のK君は、「とっても準備や練習が大変だったけど、みんなで力を合わせて頑張った。やりきった感があります。」と感想を述べてくれました。きっと、**全校の子どもたちは、充実感と達成感で満ち溢れたことと思います。私自身、校長としての判断がいかに人の心に影響を与えたのかを十分に自覚するとともに、判断の基準は「子どもファースト」であることを決意いたしました。**

今年度の卒業式は、この重大事態により卒業生、保護者、職員のための卒業式となりました。お世話になったご来賓の皆様には、直接お礼を述べる場がなく大変申し訳なく思っております。今、世の中はかつてない難局を迎えています。しかし、これまで多くの災害を乗り越えてきたように、**今こそ、学校と保護者、地域と、そして子どもたちと心と力の「つながり」を大切に、難局を乗り越えていこうではありませんか！夜は必ず明けます。どうか、来年度も子どもたちのためにお力添えいただきますようお願い申し上げます。**

卒業生の門出を祝い、未来に向かって旅立つことを祈念するかのごとく、校庭の梅の花が咲いてきました。77名の卒業生、心から卒業おめでとう！栄光の架け橋へ歩め・・・！